

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272301029		
法人名	社会福祉法人桐栄会		
事業所名	グループホームいこい		
所在地	青森県南津軽郡藤崎町水木浅田95番地		
自己評価作成日	平成22年8月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272301029&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>園内外の研修参加を職員に促し、レベルアップにつなげている。利用者の変化に敏感になれるよう情報を共有するようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービス、ケアハウスなどの施設が存在し、連携を図りながら協働して運営されている。ホームは津軽平野真っ只中に立地されており、リビングから岩木山が良く見えるような構造になっている。岩木山や津軽平野の景色を通じて四季を存分に感じられる。建物は2階建てとなっており、各フロアに1ユニット配置されており、非常にゆったりとした造りで、事業所内のどの場所でも採光が良い。 日々の実践の中で迷った時は、理念の中にある”あずましい”のキーワードに振り返り、利用者と生活を共にしている。広域な圏域から入居されている利用者の馴染みの関係を大切に、利用者の自宅のある地域へ行事以外にも出向いたりして馴染みの関係を大切にしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員みんなで話し合い、グループホーム独自の理念が作られている。あずましい暮らしをすることと和顔愛語を挙げている。	常に利用者にとってなにが”あずましい”かを実践の中で考えて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には地域の方と挨拶を交わしたり、地域の行事などに参加している。	地域の夏祭りや運動会などの行事へ出向き参加し、事業所から地域との関わりを持てるよう努めている。また、事業所からの情報発信とし事業所新聞を役場などへ配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。民生委員からも相談をうけることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、事業所からの報告と共に参加メンバーから質問や意見、要望を受けている。	家族や利用者、行政職員、地域住民の代表が参加し行なわれ、利用者の事故原因や食事内容について等、話合われ、運営に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加はもちろんのこと、認定調査時など状況の確認、不明な点や確認事項、報告書などで連絡を取り合っている。	入居に掛かる利用者の行政手続きの手伝いや圏域内のグループホーム同士の話し合いを促すなど、事業所の運営などについても行政と協力関係を築かれている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時間を決め、解錠に努めている。また、落ち着きがなくなった利用者については、さりげない声掛け、見守りを行っている。	2階建ての建物であるため事故防止の観点から、2階玄関の自動ドアには電子ロックがついている。居室内におけるベッドの位置を工夫してトイレとの位置関係から転倒せずにトイレへ行けるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の皮膚の状態やチェックなど虐待マニュアルに基づき、虐待のないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修へ参加しているが対象となる利用者は、いない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で家族に十分な説明を行い、疑問点や不明な点が発生した際は、随時、確認を摂っていただくよう声を掛けている。また、施設入所時、どのような生活を望むのか、聞き、計画書に反映させるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設置している。また、面会時ホームでの生活ぶりや在宅時の状況を話したりしている。	面会時に家族へ利用者の日々の生活ぶりを報告し、情報提供を行いつつ、家族の意見を収集し実践に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催のグループホーム会議を利用し、一方的にならないよう発言を聞く機会としている。	利用者の生活パターンに合わせ、夏時間・冬時間を取り入れ業務時間を変えているなどし、職員からの意見を取り入れて運営している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの作成、資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われる内部研修の参加や職員の参加したい外部研修には積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、地域密着型サービス事業所意見交換会開催により意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人、家族の意向をよく聞き、良好な関係を作れるようにまめに連絡するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、どのように対応できるか要望に答えられるよう話し合いをするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていること、不安なことに対してできること、できないことを判断し、できないことは検討し、家族の要望に近づいていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方に助けていただいている、教わっていると感じながら本人の持っている力を発揮できるよう声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況をこまめに電話で連絡したり、相談したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす友人だったり、馴染みの場所へ外出したりしている。	広域の地域にある事業所であるため、生活圏域が遠いものの、利用者の自宅圏域の祭りへ参加したり、自宅方面への外出を通じて馴染みの関係性を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日その日で人間関係が微妙に変化しているため、その都度、職員が見守りし、情報を職員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も施設の近くに来た際は、立ち寄ってもらえるよう家族に声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から把握に努めている。言葉や表情でそれとなく、確認したりしている。	日常生活での会話や行動から本人の意向・希望をくみ取り確認している。	意向や希望をそれぞれの担当職員が把握しているが、全職員が情報共有出来るような工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話や家族来園時に差し支えない部分の生活歴等を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で表情、態度、会話の中からできることに注目し、職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の関わりの中で思いや意見を聞き、反映するようにしている。また、毎月、グループホーム会議を開催し、職員の意見を聞くようにしている。	毎月のグループホーム会議にて話し合いが行なわれており、日々の関わりの中から聞き取った意見や意向をプランに反映されるよう話し合われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分量、排泄、バイタル表を作成し、身体状況を把握している。場面場面での本人の言葉、日々の暮らしの様子等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や利用者の希望する場所への送迎など、ニーズに応じた柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方には、運営推進会議で活躍していただいている。また、夏祭りでのボランティアとして参加いただいている。火災・災害発生時に地域協力員を設置し、対応できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族の希望をよく聞き、必要であれば、専門医の受診を勧めたりしている。	家族の希望に合わせて事業所で受診支援を行っている。家族から通院の付き添いの希望がある場合は、病状の情報交換を行いながら通院の支援を行なっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきがあった場合には、速やかに看護師に連絡し、医療機関に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には、病院を訪問し、本人や病院スタッフに治療状況を聞いたりしている。医療相談室と連携しながら、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医療相談室と連絡を取りながら今後について話し合いを行っている。	随時、看取りについて話し合い、要介護度4以上になると連携施設での看取りも含めた話し合いを家族・かかりつけ医・本人・事業所でやっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり、研修や訓練を通じて実践力を漬けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的(年3回)に行っている。近隣住民の地域協力員も設置している。	防災訓練記録を検証し、防火管理者・地域協力員を設置し、緊急連絡網を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、津軽弁であるが、本人を尊重した声掛けに心掛けている。	入浴・排泄時は当然のこと、普段から、その人に対し職員の心が伝わる言葉掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあわせた声掛けを行い、複数ある物に関しては、選択できるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人のサインを読み取り、何がしたいかを把握し、個別対応に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れ、汚れ等に対し、さりげなく支援している。また、外出の際は、季節に合った衣類を本人と一緒に選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に盛りつけや配膳を行い、職員も利用者と同じ食事を同じ空間で食べている。自宅で利用した、茶碗、碗、湯呑み、箸を利用している。	毎食時、利用者と職員が同じ席で同じ食事をしている。食前の準備や茶碗拭きなど、利用者の能力を活かした作業の支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特養の栄養士が献立作成している。一人ひとりの食事摂取量は確認表にて把握でき、必要時は、補食も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄を行い、夕食後は、ポリデントを使用し、消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表で排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう、また、利用者の表情や行動で誘導するようにしている。	トイレは居室にあり、排泄表を活用している他、表情やその人の行動パターンを確認し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を摂るようにしたり、食事前に体操をしたりしている。便秘時は、下剤や繊維で調整し、4日以上便秘のないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の入浴する曜日は決めているが、訴えや状態に合わせて入浴を楽しめるようにしている。	入浴の曜日は、2ユニットで異なり、計・週4日は定型パターンで応じている。お湯は温泉であり、脱衣所に成分分析表を掲示している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個人により就寝時間が違うため、それに合わせている。また、寝具もその人に合った物を利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は全員の飲んでいる薬の内容をファイリングし、いつでも見ることができるようにしている。薬は、職員側で個別に保管しており、誤訳のないよう氏名、日付、時間帯を記入し、内服時は、複数の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を添えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況に合わせて「今どうしたいか」把握し、外出するようにしている。季節に合った場所、本人のなじみの場所に行けるようにしている。	個別には事業所の車を使用し、通院の帰途はまわり道をして思い出の場所を訪ねることもある。多人数の外出にはデイサービスの運転手とバスにより対応している。ドライブは最低月1回は対応出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っていないと不安な利用者には、財布をもっていただいている。その他は、金庫に預かっている。外出時、自分で支払いを行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、手紙や電話をかける支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者が快適に過ごせるよう音響や家具に配慮している。テレビの音量などにも気をつけている。懐メロを流したり、四季を感じられる壁画を利用者と職員が作成したりしている。	トイレは居室に配置されており、浴室は設置場所に配慮し、廊下も広く、休憩ベンチの配備や作品の展示にも工夫がされ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、ステーション脇に椅子を置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、写真等を持ち込まれたり、在宅時気に入って着用していた洋服を持ってきたりしている。	身の回りの品を数多く持ち込んでいる居室もあったが、居室にはベッド以外ほとんど、配置されていない居室もある。	利用者がプライベート空間として過ごす場所としての居室の活用や、設えの工夫に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに行く際、何かにつかまろうとするかたには、手すりの工夫をしたり、状況に合わせて環境整備に努めている。		